

第1回 那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議

■ 日時

令和元年10月10日（木）12:40～13:20

■ 場所

那須塩原市 東那須野公民館 多目的室

■ 出席者

有識者委員

- 小場瀬 令二 （筑波大学名誉教授）
- 山 島 哲夫 （宇都宮共和大学副学長）
- 松 岡 拓公雄 （亜細亜大学都市創造学部長）
- 渡 辺 美知太郎（那須塩原市長）

ファシリテーター

- 朝比奈 一郎（那須塩原市経済活性アドバイザー）

■ 議事

朝比奈氏：

昼食のお時間が終了しましたので、ここからは、第1回那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議の意見交換のお時間とさせていただきます。

まず始めに、渡辺市長からご挨拶をいただきたいと思います。

渡辺市長：

私は前職で国会議員をしておりましたが、国会議員を辞して市長となりました。なぜそこまでのことをして市長になったかと言いますと、栃木県北は仙台などと比べてまだ賑わいが足りないと感じ、市長となって県北に賑わいを取り戻したいと思ったからです。

私のマニフェストでも掲げておりますが、そうした県全体の発展を意識した上での那須塩原駅周辺のまちづくりについて、「県北の中心として、相応しい将来ビジョンを策定する」ということで当選させていただいております。

那須塩原駅は市の玄関となります。まずは市を超えて大きく那須野が原のエリア全体がどうあるべきかを議論し、そして那須野が原のエリアで最も大きい駅である那須塩原駅のあり方をどう考えるのか。そのような広域的な観点から専門家のアドバイスをいただきたいと思っています。

本日は市内の様々な施設や自然などの地域、資源を視察する予定です。視察先の一つに県の畜産酪農研究センターのバイオマスプラントが入っておりますが、国が再生可能エネルギーを提唱する前から、この地域はクリーンエネルギーの普及に努めて参りました。那須野が原というのはサステイナブルな、持続可能性を強く意識できるエリアではないかと思っています。

午前中は新青木発電所を視察しましたが、途中朝比奈先生より「この地域はクリーンエネルギーのショールームのようである」といったご意見もいただきました。

また、那須野が原は2018年5月に「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」として日本遺産に認定されました。那須野が原における開拓の歴史より、先人たちから、また新たな恩恵をいただくことができたと考えています。先ほど日本遺産の構成文化財である旧青木那須別邸を視察しましたが、このような那須野が原の歴史や魅力をもっと発信していきたいと考えています。

本有識者会議においては、先生方から那須野が原や那須塩原駅エリアにはこのような魅力があるというご意見をいただき、そのご意見をもとにまちづくりビジョン案を策定します。有識者会議での議論を踏まえ、来年度はさらに市民を交えたまちづくりビジョン検討会を開催し、那須塩原駅前まちづくりビジョンを策定したいと考えています。那須塩原駅周辺のまちづくりについては、市議会においてもかつてないほど有益なプロジェクトであると称賛のお言葉をいただきました。有識者の先生方からは、本日はどうぞ忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、宜しく願いいたします。

朝比奈氏：

本日の司会進行を努めさせていただきます。私は全国で8つの地域アドバイザーを拝命していますが、日本の活性化のためには、地域の活性化が最も重要な鍵であると考えています。地域アドバイザーの仕事としては、那須塩原市を初めに担当させていただきました。その中では委員会の座長として、黒磯駅前及び駅周辺地域の活性化に向けた提案の取りまとめなどを行ってきました。

まずは、小場瀬先生、山島先生、松岡先生の順に簡単に自己紹介をお願いします。

小場瀬氏：

前職は筑波大学の社会工学部で教員を勤めていました。退官後は練馬区でまちづくりセンターの所長を6年間やっており、色々なまちづくり支援を行ってきたところです。宜しくお願いします。

山島氏：

もともと旧建設省に勤めておりましたが、退職後は大学で教えたいと思い、那須大学に務

めることとなりました。那須大学は後に宇都宮共和大学に改名されましたが、現在は同大学の副学長をしております。那須塩原市の関係では色々なお付き合いをさせていただいておりますが、宜しく願いいたします。

松岡氏：

私の名前は「拓公雄（たけお）」であります。公を開拓するという意味があります。名前の影響というのはあるもので、日々そのような使命感を感じているところです。

東京芸術大学の建築学科を出て、丹下設計事務所に10年おり、海外駐在を経て、主任建築家として東京都新都庁舎コンペを担当しました。その後は自分で事務所を作って、その仕事をやりながら滋賀県立大学環境科学部で教員を務めました。現在は東京に戻って亜細亜大学都市創造学部の学部長をしています。都市と地域というのは常に反発し合うようなものですが、それらを一体として考えていかななくてはなりません。都市創造学部とは、そういった都市と地方の人々をいかに幸せにするかということを追求する学部になります。

朝比奈氏：

ここで、有識者の中で今回ご欠席となっている東京都市大学の特別教授でいらっしゃる涌井先生より事前にご意見をいただいておりますので簡単にご紹介させていただきます。

- 那須塩原は美しい自然に溢れている。しかしながら、地域が持つそうした力をただ頼るばかりでは、世界で起こりつつある地球環境の悪化に起因したSDGs（持続可能な開発目標）などを含めた「社会的大変容」に取り残されてしまう。
- よって地域の自然的・歴史的な特性や価値を尊重しつつも、それらを活用した新たな地域の創造をもくろむ必要がある。
- その中で無視出来ないのはSociety5.0などのテクノロジーの流れである。もともと人間はアナログな存在であり、自然とテクノロジーを掛け合わせることが肝心となる。
- アメリカの西海岸のシリコンバレーのように、豊かな自然を背景とした食や農につながる環境が、産業立地に最適との見方も多い。
- そのポイントは、自然的・文化的個性や特性を維持しつつ、誰も拒絶しない、無縁の人々が共にざっくばらんに語り合えるバーやカフェが備わった多様性と寛容性を兼ね備える、「場」を重視した地域づくりという点にある。
- 誰にでも開放されており、美しく環境に配慮されたオープンマインドである街こそが、真のスマートシティとなる資格を持っている。そういう意味において那須塩原は他に類例のない条件を備えており、その条件を前提に2050年の世界と日本を視野に入れた街づくりの議論を進めていただきたい。

以上が涌井先生より事前いただいたコメントの概要となります。それでは続きまして、各委員よりまちづくりビジョンに関するご意見をお願いいたします。

小場瀬氏：

私は何回も那須塩原を訪れている訳ではないですが、今日見学した印象では、那須塩原はクリーンエネルギーなども含め自然が素晴らしく、開拓の歴史も魅力的だと思います。しかし私の考えでは、クリーンエネルギーとか環境に優しいというのは日本の中で当たり前になってしまっています。那須塩原ではないと出せない良さを見つけ、その個性を打ち出せるかが肝心です。例えば、道路は非常によく整備されて立派な歩道がついていますので、サイクルロードなどで特色をつけることも可能です。また、農体験などと組み合わせ、インストラクター付きのサイクリング体験なども考えられそうですね。

本日見学しました小水力発電も地域の地形を活かした面白い発電だと思います。しかし、言うは易し行うは難しであり、実際に上手くできている地域はなかなかありません。また、このような地域に根ざした自然エネルギーは、発電するだけで終わりということであってはもったいないですね。現地の自然エネルギーにより画期的な農業や酪農が行えるようになり、那須塩原ならではの美味しいチーズやワインなどの製品ができるようになったなどのストーリーツーリズムが生まれると面白いのではないのでしょうか。

山島氏：

那須にはよく来ていますが、那須塩原の駅前と黒磯、西那須野では性格が全く違う。黒磯の駅前は間も無く完成する図書館もありますし一つにまとまった、良い街だなという雰囲気を感じます。一方で西那須野は通勤駅という感じで、駅前に何もなくても通勤客が多く利用します。

那須塩原駅是那須地域全体の結節点であり、交通の中心となりますが、その性格が分かりづらく、駅から降りたときに那須のイメージがない。素晴らしい景観があるというのは分かりますが、那須塩原駅が那須地域の全体のイメージを代表していなければなりません。那須にはもともと非常に良いイメージがあるので、駅から降りた時にそれを強化するものがあれば、人はここが那須の中心だということを感じてもらえます。

まちづくりについては、どのような施設を作るかというよりも、誰をターゲットにし、何をイメージさせるかが重要です。例えば軽井沢であれば人々は別荘をイメージしますが、那須塩原も同じように地元の資源を使ってまちのイメージを作り上げていかなければなりません。那須のイメージを那須塩原駅に凝縮するようなものができればすごく良いと思います。

松岡氏：

那須塩原駅を利用する時に感じるのは、駅周辺に飲み屋街が無いということ。次の新幹線までに50分など待たされることもありますが、その時間で飲むことができません。

朝は爽やかで、景色がやはり最大の魅力です。ところが回りを見ると、駐車場などが多く、

少しまとまりが無いと誰しもが感じます。西那須野と黒磯の結節点にしようとする意図も十分活かせていません。遠方に見える山とか、視覚的に目に入るものは美しいのですが、面白そうというものが無いと魅力を感じないので、それが一つの課題となります。

街自体は色々なものを持っていて贅沢だだと思います。滋賀県の近江八幡の街づくりを担当したことがあります。西の湖、安土城、ヴォーリズという建築家による街づくり、運河などいっぱい資源があるのに、それに気付いていないのはそこに住んでいるたち。外から来た人たちは、こんなに良いものがあるのにと気付いてくれます。堀を自分たちで綺麗にするなど、コミュニティ活動を展開するきっかけを作ると、まちづくりが自然と動き出します。自分たちのことを誇りに思うということがなければ街は動きません。私は景観のアドバイザーですが、綺麗なところは人が意識的にそうしているものです。人を呼ぶには物を作ったりするだけではなくて、普段の街を愛するようなそういった活動をするのが良いのではないのでしょうか。街はエネルギーとか自然などの魅力を備えています。さらに一つの売り物にできることとしては「自律する」ということがあるのだと思います。自律の律は、律するという意味です。自分たちで賄える、他に頼らなくても生きていけるという力があれば、人はその街に自然と寄ってくる。地域の迫りくる危機を感じ、その危機を意識して自律することができれば、街の誇りとなるのではないのでしょうか。

朝比奈氏：

この会議で今後議論をどのように集約してまとめていくかご意見願います。今後オプザーバーを呼んで議論することを想定しておりますので、その点も踏まえてご意見をいただきたいと思います。

小場瀬氏：

素晴らしい素材があつて役所が情報発信していても、那須塩原に行こうという動きには残念ながらもなかなか繋がらない。民間などで発信手法の分野を研究されている方に来ていただくのが良いのではないかと。

山島氏：

まちづくりはパッと一時期に作るというものではありません。例えば宇都宮の LRT は計画実現までに 25 年かかりましたし、宇都宮駅東口の再開発も一度頓挫しています。街の状況は常に変わるので、少しずつ作って、それがどう変わるかを見るというように、徐々に柔軟にやっていくことが必要です。それと、まちづくりに携わる地元の人々の意見を聞くことも重要ではないのでしょうか。

松岡氏：

まちづくりは一気にできるものではなく、時間がかかるものである。プロセスがしっかり

していれば成功しているところはありません。実践してこの指とまれでやっている人たちを探してはどうでしょうか。ビジネスが定まっていなくて人は集まってくれないので、関係者をマッチングできるような人を探する必要があります。

朝比奈氏：

どうもありがとうございました。これまで出てきた議論を簡単にまとめます。

小場瀬先生のおっしゃるように、那須ならではのストーリー性を作ることが重要になるのではないのでしょうか。

山島先生からは、みんなが抱けるようなイメージが大切で、そのための地域の結節点としての那須塩原駅前というお話をいただきました。

松岡先生からは、せっかくある地域資源を生かして、楽しさを求め、自律していくというキーワードを出していただきました。

それでは、最後市長より総括をお願いします。

渡辺市長：

再生可能エネルギーはただ作るだけではなくて一工夫が必要です。例えば Apple は世界各地の同社施設のエネルギーを全て自社の再生可能エネルギーで賄っているなど、象徴的な方針を打ち出しています。他の自治体でもクリーンエネルギーに取り組んでいるところも多いですが、箱物ベースでの議論で終わっているケースも多くあります。資金調達の面も含めて、グリーンボンドなど環境に配慮している手法を取り入れるなど、一つの点ではなく面的な観点からも考えていきたいと思えます。

もう一つの論点として、那須も鎌倉などのように訪問先としてイメージができるような環境を整えなくてはなりません。那須塩原に来て駅前に出ても何も無いでは勿体無いので、駅を降りてすぐに那須を満喫できるようなエリアが必要なのではないのでしょうか。

那須の自立・自律については、国会移転の議論もかつてあったように、災害の多い日本において機能移転の話が進められても良いのではないのでしょうか。例えば省庁の移転であったり、非常時に備えて地方にバックアップ機能を持たせるよう議論が進められても良いのではないのでしょうか。那須は自立しています、食糧やエネルギーも自立していますというように、グローブを常に構えていられるような取り組みが必要です。そのような観点も踏まえて構想を作っていきたいと考えています。

以上